

令和元年度 第2回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 令和元年9月4日（水）午後7：00～午後9：15

◆開催場所 東近江市市役所新館 313会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、小森秀樹、塚本喜久藏、大林恵子、大橋正徳、森下瑠美、金子泉美、辻 薫、園田由未子、小島なぎさ、山本十三、井上文子
(欠席：藤澤彰祐、小嶋一浩、奥田新悟)

事務局 まちづくり協働課 久保、西川、溝江
(傍聴者：0人)

◆議事

- 1 地域コミュニティの存続について
- 2 意見交換（自治会との協議の進め方・論点、委員会の姿勢など）
- 3 『共に考え、共に創る わがまち協働大賞』について

◆会議録

【事務局より開会のあいさつ】

朝夕めっきり涼しくなり、秋の気配が感じられるようになってきました。本日は夜分お疲れの中、第2回の市民協働推進委員会に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。ただいまより、委員会を開催させていただきます。

本日ですが、インターンシップの学生がまちづくり協働課で実習してくれていますので、この会に同席させていただきたいと思います。自己紹介させていただきます。

(実習生)

「インターンシップでまちづくり協働課にお世話になっております、滋賀県立大学の太谷と申します。本日はよろしく願いいたします。」

【委員長あいさつ】

皆様こんばんは。第2回目の委員会を開催させていただきます。この間、皆様方には自治会に行っていたり協働大賞の第一次審査をしていただいたりしました。今日はその二つのやっていたことをベースに、振り返りいくつかの結論を。協働大賞の方は、後で説明がありますがかなり今年は難しい…、点数で言うと「選ぶのがかなり難しそうぞ」という状態で、先ほど僕も見せてもらって「どうしよう」と思っています。ぜひ積極的な進行、決断に御協力いただければと思います。

それでは、早速ではありますが、議題は二つです。一つは、第一次選考で概ね10団体を決めるという作業、後はヒアリングの作業や中学生が決める賞をどのように作っていくかということが一番です。もう一つは、佐野自治会をはじめ二つの自治会に皆さん方チームに分かれてヒアリングに行っていましたので、そちらの御報告と情報共有をしていただき、行っていたことをベースに、次のアクションかとか、こういうことが課題でこういうことやれたらいいよねということ、アイデアだしを含めてやっていただくことになろうかと思っています。

では、最初にですが一点目、わがまち協働大賞第一次選考ということで、事務局の方から説

明をよろしく申し上げます。

【わがまち協働大賞第一次選考について】

* 選考については非公開

* 1次選考の結果、応募のあった21事例のうち11事例が1次選考通過。

【事務局からヒアリングとスケジュールについて説明】

(事務局)

昨年度と大きく変わる点はありません。委員の方2名と事務局から1名一緒に行かせていただきます。それぞれの都合があるので、日程調整の上、事務局より後日連絡させていただきます。項目はヒアリングシートのとおりです。委員さんで分担してシートの作成をお願いします。最終10月4日までに事務局に御提出をお願いいたします。市民投票用に写真データやナレーション撮影の方も事務局の方で事前依頼の上行う予定なので補助をお願いいたします。

ヒアリング結果は事務局でまとめて、委員さんにお送りいたしまして、また評価をして返していただくという流れになります。

(委員長)

何か御質問等ありますでしょうか。日程調整の上になるかと思いますので、御協力をお願いいたします。

市民投票と、中学生にも関わってもらいたいと思います。

(事務局)

【市民投票について説明】

- ・資料5に基づき説明。10月11日～10月31日予定。
- ・アンケート形式で選んでいただく。
- ・投票場所：市役所本館ロビー、新たに人が集まりやすい場所に追加。能登川駅自由通路、各図書館、コミュニティセンター。かぶらないような形で各地区いずれかの施設で投票場所を設けたいと思う。認定NPO法人まちづくりネット東近江さんでHPから投票。
- ・市民投票結果反映方法：選考委員2名分。
- ・協働委員会で最終選考。10月10日くらいに事務局から各委員さんに送らせていただく。10/28最終メーチェ。その後、事務局で集計させてもらう。
- ・受賞団体はわくわくこらぼ村で表彰。
- ・中学校については、3年目。公立9校、私立1校なので、私立1校も今年度審査に加わってもらえば、ちょうど一回りの年となる。教頭会で主旨等説明し、それぞれの校に交渉していく予定。

(委員長)

場所を増やすことを検討してもらっている。中学生に関わってもらうことは、非常に良い取り組みと思っています。委員の皆さんから、他に何か御意見はありますか。

ちなみに、未実施の中学校はどこになるのでしょうか。

(事務局)

五個荘、愛東、玉園です。私立は滋賀学園です。

(委員長)

それで一巡すると。市民投票の場所や方法など。他の方、いかがでしょうか。はい、ありがとうございます。またヒアリング等、皆様にお世話になりますが、市民投票も盛り上がるようにしていただければと思います。また、まちづくりネットさんの御協力で盛り上がるようにしていただいているということで、毎年組織票が垣間見えることもありますが、それもまた醍醐味だと思いますので。

ぜひ、これまで経験して来てもらった中学校の先生の中には「これ結構いいよね」と思ったださっている方もいらっしゃると思いますので、インターネット投票とかでぜひ参加していただけるように、この先生の集まりとかでお願いしていただければと思いますし、一巡したということは、その御意見を聴いてきていただけたら。「全学校でできないのか」とか、それでは事務局が対応しきれないとなると、では「学校でやるよ」ということを言っていただけたら、毎年やってもらったりができるかもしれません。一巡したと言うのは非常にいいタイミングであるので、中学生が関わってくれるプロセスを大切にしたいと思います。

はい、それでは、協働大賞に関する協議については閉じさせて頂きたいと思います。よろしいでしょうか。

(委員)

市民投票で、動画とかってその場所でないとみられないんですか？

(委員)

インターネットで見られます。

(委員)

それってケーブルテレビで流したりとかしてもらえないんでしょうか。検索しないとみられないというのは…。(協働大賞を)知らない人がぱっと見られるような。

(委員長)

そうですね。そういう(知らない人にも目につくようにという)コンセプトで、まち中、コミセンとかに(掲示する)ということだと思いますが。

(委員)

スマイルネットさんでの枠が決まっていると言うのもありますが、「まちのわ」というのが、第一週目15分の枠があるので、流そうと思えばそこは流せます。その一週間だけにはなりますが。

(委員)

再放送もあるし、繰り返し流れますよね。

(委員)

その番組については、繰り返しはないです。

(委員)

中学生も結構観ているので、まちの皆さんもそれを観ていると思うので、もっと広がるのではないかなと思って。

(委員長)

では、無理のない範囲で、事務局で一度検討してもらって。また、来年度の方法としても、どれぐらい効果あるか、てんびんをかけながら。判断は事務局にお任せしたいと思いますが、それでよろしいですか。

もっとこういうところでやったらどうだということは、来年度に向けて、今年度はこれで行きたいと思いますが、どのようにしていけば良いか思いを巡らせていただければと思います。

では、只今から二点目、自治会に訪問に行っていたことについて御報告していただきたいと思いますが、その上で、「今後この委員会で、こういうことをやったらいいよ」というのが提案していただければと思います。

資料7に会議録をつけていただいています。本日は、訪問していただいた委員を代表して、大橋委員と小森委員に報告していただけるとお伺いしていますので、最初は大橋さんの方から御報告をお願いいたします。

(委員)

うまく説明できないかもしれませんが、その都度質問等していただきながら説明させていただきます。佐野自治会という資料です。

先に、この自治会訪問での私が抱いた全体的な感想、イメージ1つ目は佐野自治会さんは出席者数が多かったです。非常に驚きました。20名近い、大ベテランの人がかなり来ておられました。そういう方が、自治会運営を心配しておられるのだなと感じました。7時から9時の2時間という長い時間でしたが、まだ足りない、もっと喋りたいと言うような雰囲気を感じました。すごいな、熱意があるんだなということを感じ取りました。事務局の方も喋りやすい雰囲気を作ってくさったので、私としても喋りやすかったです。会議の内容は情報・意見交換会ということで、ずらっと並ばれた役員さんたちが地域の自慢話をしてくださいました。

協働と言うのはどういうことだということを投げかけられたので、事務局から説明されました。何とか理解していただけたのではないかなと思います。

【資料に基づき説明】

- ・佐野自治会は宅地開発が50年程前から進んできたが、近年更に開発され、小さな自治会が増えるなどして対応に苦慮されている。
- ・公民館も立派で財政的に困窮感はないとのこと。
- ・小字(組)別に活動されていることが多く、「全体」としての活動は少ない。しかし、小字の活動が減ってきている。
- ・事務局があり、事務局長、事務員さんがいて自治会長の代わりに諸問題を把握されているのが心強いとのこと。これが強み。
- ・ボランティアしている人も高齢化で、問題になっている。
- ・幅広い年代が顔を合わせる方法があるかを教えてもらいたいという話があった。

(深尾委員長)

ありがとうございました。非常に丁寧に御説明いただきました。こういう状況を踏まえ、他にも行った方、後から御議論いただきたい。補足も含め。ありがとうございました。

では、小森さんの方から説明をお願いいたします。

(委員)

皆さんこんばんは。池庄自治会の懇談会に参加させていただきました。概要については、池庄町自治会の現状と課題について情報交換しました。以下、意見交換会の議事録をもとにかいつまんで説明させていただきます。

【資料に基づき説明】

- ・40代は意外と（地元）に残っている。自治会には入っているが住まいは市外の人も。
- ・住民同士のつながりが弱い面もあり、自治会では国会のようなヤジがとぶことも。
- ・自治会に入らない人はいない、とのこと。そのおかげで行事はできているが、外から見ていると大変と見える。実際にやっている人は大変とは感じていない。
- ・80歳以上の方が対象で夜回りを免責。
- ・自治会長など役員の役割の見える化ができれば、不安が少なく引き受けられるのではないかと。

等（資料参照）

（委員長）

ありがとうございました。池庄町のほうは、最後にありましたように、その後自治会で作っておられるA～C3つの課題解決のチームのうち、2つのチームにはいっていき、テーマをある程度明確になって、Bはいいが！Cは一緒に考えて欲しいと、一緒に入っていて、中でいろいろと議論を一緒にしていただければいいなあと思って聞いていました。

一方で佐野のほうは、どう展開していくかを含めて意見交換、池庄町もですが。まず、池庄町はAチームCチームに入って、地元の自治会に入って行き、事例を含めて提供して、うちはこちらです、と外の支援を経て、このやりとりの延長線上をA、Cに分かれて取り込んでいくと。

池庄町の方から議論していきたいと思いますが、補足的なことはありますか。…はい。ではこう言う形で、ある意味タスクを具体的に設定して来ていただいたということで。

では、佐野の方も丁寧に説明していただきました。かなり課題が整理されて分かりやすかったと思います。今後の進め方のところで、行かれた皆さんで「こういう感じかなあ」というのがあれば、共有していただけたらいいなと思うのですが、いかがでしょうか。若い世代の問題とか。場の問題とか。いくつか大きな課題整理されていますが、「次こういう形でお話できれば」とか、テーマ設定とか、「こういう感じだった」「こういう約束をしてきた」など、シェアしていただければ。

（委員）

佐野自治会さん、自治会長等の役を経験された重鎮の方が多くて。雰囲気としては和気あいあいという感じではなかったんですね。元役員の方がたくさんいらっしやって、課題をたくさん出されていたのですが、「だったら今の若い人達はどうなんだ」という、「その生の意見が聴きたいね」という話は出ていたかと思います。

「こういう重鎮の方達の方ではなく、もうちょっとリラックスした雰囲気です若い人の意見がきけたら良いね」と言っていたので、次の場ではそういうことができれば。

（委員長）

それは重鎮の皆さん方もそういう（若い人中心のリラックスした場で話し合いたいという）認識ですか？こちら側の思いとしてですか？

（委員）

一応、こちら側から提案した形にはなっていると思うんですけど。若い世代の人達がやっぱり自治会に入らないので、普段どうしてるんだろうと言われてたので。

（委員長）

20代、30代の人達のこと、選挙の方法も含めてそういう課題があがっているということ。

重鎮の皆さん方も、それをほっといたわけではなく、巻き込みたかったけどそういう機会がなかったというところで、その辺りのコミュニケーションみたいなことを、どこかで思っておられる中で、実際当事者である人達はどう思っているのかということだと。

そういう意味では、「若い人」というのが、どれぐらいまで若い人なのか、というのもありますけど。どうなんでしょう、感觸的に何歳ぐらいの「若い人」？佐野にとっては…。ここ（資料）には具体的に20代、30代と出ていますが。

（事務局）

この発言をされた方は、「20代30代の人」と仰ってましたが。その後、「家長ではなくその後の世代の人ももっと」という言い方もされていたので、恐らく（想定している年代は）2層くらいあるかなという印象があります。

（委員長）

なるほど。「生物的な若さ」と、世代としての「次の世代」というところの若い世代と、2つあると。そうかもしれませんね。ありがとうございます。それも含めて、世代を超えたコミュニケーションとか、若い世代をどう巻き込んでいくのかということ、当事者である若い世代はどう考えているのかということのヒアリングとか、ということができれば良いということが一つ。

他にどうですか。行かれた方で、こういうことを感じたということなど言っていただければ。

（委員）

世代ごとの話を聴きたいということは、委員の方も共通に思ったことですが、田の用水路の件で、愛東で働いているので、その機能の後退が集落の後退に密接に結びついているのを感じて。愛東側から見たら佐野は街なんですけど、ここでも同じような問題が出てくるのだなど。

数人で、集落全体の長い距離の用水路を掃除しないといけないという大変さ、農業の問題と集落の問題が絡み合って、今回私が参加して聴きたいと思ったのは、世代ごとの話もききたいし、世代ごとに今の自分達の住んでるまちで感じてる課題がどこなのかということも多分違うし、そこを聴き取れたら、こういう用水路の問題も、どんな人がどんな目線でみているのか分かるし、農業者だけない、どういう人が関わられるのかというのが見えてくるのではないかなと感じました。

（委員長）

ありがとうございました。そういう意味では、感じてたり認識してたりすることを、お互いの構造的に整理するというか。世代もそうですし、職業もそうですし、暮らし方もそうかもしれないです。いろんな観点で、今の用水路の件もそうですし、切り口から見えるどのように考えているのかとか、いろいろ議論したり浮かび上がらせたいと。はい。他、いかがでしょうか。行っていただいた方。

（委員）

進め方がわからなかった。私の集落は古いですから、佐野の自治会とは歴史が違って話合合わない。できてきた歴史が全然違う。違うから、議論のしようがない。向こうの言っておられることがわからない、こちらの言っていることも分からないと思う。例えば、「組が中心で活動している」と仰っていたが、私の自治会では組と言うのは5～10件の集まりでしかないが、佐野の組は大きな、もっとたくさんの家が集まっている。言っておられることがわからなかった。そういう歴史で育っていないから。隣組に権限を与えるのではなく、自治会がしっか

りしてないという頭でいるので、話が合わない。私共が中に入って行って、佐野の自治会が困っておられる内容に回答を出すのかどうか分からないが…。先ほど農業の話もありましたが、自治会と農業は別ですよ。地域の問題は全て自治会でと捉えてしまうと、どうなのかと。広すぎますよね。

(委員長)

はい。そういう意味では、違いみたいなのところから、お互いヒントが見つかるかもしれない。違うのは違うんです。一緒にしようというものではない。逆に言えば、伝統的なやり方みたいなところからヒントを得たりとか。僕なんかも今、そういうことを今感じていますけど。そういう意味では、交流的な要素を、お互い他を知らないで。「そういうやり方が当たり前」と思っているところから学びあうとか、少し困っているというフェーズでいくと、今みたいな農業の話で言えば、「逆に言えば、そういうところまで自治会で背負わないでもいいよ」と言うことで楽になることもあるので、そういうような観点で言えば全然、「全て同じにしよう」と思えば話は合わないですけど。そういう、色々な知恵を交流し合うということは必要かもしれません。

(委員)

佐野の自治会に行って、こちらの委員と話したりしていることは良いんですけど、答えがどこに向かうのか、何がしたいのかまだ見えないところがある。

(委員長)

今の、世代間のことなど「悩み」にどう寄り添うかということだと思っているので、そういう意味ではわれわれの役割と言うのは、答えを出すと言うことは、それは答えが出ればそれで良いんですけど、課題、今みたいな用水路の問題に対して「それはこうじゃないの」ということで楽になるならそれは一つの答えだと思いますし。そこはスパッと答えが出る問題では無くて。逆に言えば我々が答えをだせるようなら日本中誰も困ってないので、そういう意味では非常に複雑で、ちょっとずつ紐解いてみようという試みだと思いますので、今言っていた「世代間のアプローチをやりたいんだ」と思っていたらしゃつたとして、その当事者の世代の人達とどのようにコミュニケーションを取るかと言うことはぜひしていただければと思いますし、さっき言っていたように「感じている課題」とか構造とか、「実はその課題は自治会で背負わなくてもいいんじゃないか」みたいなことも含めて、少し課題を構造化してみたいということがありました。

今までのようなオーダーでいくと、自治会さん側の体制とか、次議論する場としては可能そうですか。

(事務局)

今いただいた意見のなかで、若い方と（話し合いの場を持つ）、ということで自治会さん側にお伝えした時に、人を集めるということで一つ苦労されているので、そこはまず「どう若い人を集めるのか」ということを悩まれるのかなというのがありますね。

(委員長)

そういうことから少し相談に乗りながら。ただ、無理してあくまでも「やってください！」と言うものではないと思うので、間合いを見ながら。今のような形のものを、一つは若い世代とのこと。もう一つは、問題を構造化するというのが、できれば2チームで作業することで見えるような気がするんですよ。委員が言っていた視点も含めて、「自治会」というものがどういう役割を地域の中で果たしていくのか、どういう世代・どういう存在がどこを問題

だと思っているのか、明らかにしていくと。歴史が厚いと、自然と様々な形で、暗黙知で整理できるんですけども。そういうことが難しいということを感じておられることもあるので、できればそのような整理ができれば。それはもっと話を聴くということかもしれないですし、さっきの話では、少し重たい空気だったと感じたわけですね。もっと話しやすい方がいいなどということですね。重鎮の方々以外にも、もう少し多様な方と話し合いをしていただくと良いのかなと思いますが、そのような感じで良いですか？

(委員)

もし可能であれば。

(委員長)

はい。では、その方向性で調整してもらえればと思います。池庄の方はAチーム・BチームCチームは、地元の人たちは既存のチームがあるということですね。分かりました。ここはどれくらいの頻度で会議されてますか。

(事務局)

季節に1回くらいと思います。

(深尾委員長)

分かりました。これは非常に息の長い話で、答えが出ない話ではありますので、ちょっとモヤモヤとするところもあるかもしれませんが、今年度「入って考えてみる」「いろんな自治会のスタイルを知る」ということが我々としても大事だということで、このヒアリング作業というか会合をやりましたので。先ほど「東近江一の自治会だ」と仰った文脈も、自分の暮らしの中で「こんな自治会があるのか」ということの発見とか、すごいなということが行って、話を聴くと感じられる部分とか、「これは真似しよう」とか、その逆も当然あるわけですが、そのような感じられていることを積み上げていただいて、最終的には気づきを構造化していけるようなことで、地域の自治とか住民自治をどう考えて行くかということ、我々としても知見をつみあげていきたいと思っていますので、継続的に両自治会の方で、今回行っていただいた皆さんを中心に次のステップに移っていただいて、協議を進めていただければと思います。今日は最初に報告をいただきました。そして今後の取組みのところを御意見、御議論いただきました。何かございますか。はい、どうぞ。

(委員)

長くなってすみません。さっき委員が仰ったことに繋がるのですが、重鎮の皆さんが並ばれて向かいに座った時に、自治会の方々も「この人たちは何しに来たんだろう」と思われていて、私達も「この人達にどこまでを求められているんだろう」と、ちょっと変な緊張感があって。自治会の方も、どれだけ私達に理解というか、何をしに来たかを、正直何をしに行くかを私達も分かってないところがあって。ただ、先生が仰った「紐解き」というのは私には腑に落ちて、「紐解きに行くんだったら、行けるかな」と。答えは出せないなと思ったので。長くやっつけらっしゃる方に、答えをとっても出せないなと思ったので。向こうの方も「紐解きに来たんだ」と思ったらもう少し気楽に話してもらえるとと思うので、この辺りを向こうの方とのやりとりで説明をしていただけたらありがたいなと思いました。

(委員長)

そうですね。我々としては、答えを出すということではなく本質的には、一つは市民協働という住民自治の政策をどう考えていくか。逆に言えば東近江市としてどういう施策を、自治会

支援ということを考えていくか。そういう政策づくりをやっていくわけですね。その中で、実態を、いろいろな悩みをもった自治会があるということをお我々が知った上でそういう政策やこういうものが必要だよねということをおこの委員会としては、ある意味で「高いところ」から議論せざるを得ない。市の政策とか方向性を提言するというか、ある程度決めていくという立ち位置からすると、そういうこと（高いところからの議論）をやらないといけなわけです。その中で、なぜそもそも「自治会に行こうか」という議論になったかというところ“いろんな自治会があったり、いろんな事情があったり、いろんなでき方がある”ということをお多様に知った上でないと、なかなか「こうだ」と言い切れないうし、今どのようなことに悩んでいるのか。「ステレオタイプのような捉え方をしないでほしい」ということも、聴けばあるわけです。そういうことを我々としては、事例としては少ないですけども「知らないよりは、知ったほうが良いよね」ということで紐解きに、教えてもらいに行くところ。その中で、課題についても出してもらえれば一緒に考えたりとか、一緒にもっと肉薄して「ああ、こういうことか」という知見をお我々としては溜めこんでいくということだと思いうんです。

そういう意味では、我々が全てを解決できるということではなくて、逆に教えてもらったり感じたことをベースにして、自治会には、地域にはどういう支援・政策が必要なのかということをお考えるきっかけになる意見であったり情報を教えてもらおうということをお、自治会さんにもお伝えしていただいているとは思いますが、そういうことを腑に落ちる形で。我々はスーパーマンというわけではないですので、全てを解決できるわけではないですが、「一緒に悩みを共有させてください」という…それぐらいでしかないと思いうんです。数回会ったところでお変えられるわけではない。ただ、それを引いたところから見て、東近江市全体の政策として考えるという、次のフェーズが待っていますので。そのための、考えたり感じたり、納得したり比べたりという作業を通して多様性を知りながら考えるきっかけにしたいということ。なので、「紐解く」という。そういう共通認識のベースに立って、自治会へのお願いであったり、この間の議論はそういうものだと思います。そこは改めて確認したいところ。では、結論が出ることはないので、継続的にお願いしたいと思いうん。

はい、では、次に事務連絡についてです。先ほどもありましたが、わがまち協働大賞の最終選考について、11月11日にお願ひしたいと思いうん。あと、わがまち協働大賞の協賛についてのチラシを入れていただいているので、こちらの方も簡単に説明をお願ひいたします。

(事務局)

- ・11月15日まで、わがまち協働大賞の協賛募集中。副賞の提供など。お店などされている方、おすすめしたいところがあれば声をかけてもらいたい。クーポン券が無い場合は事務局が作成する。協賛していただいたところは協働大賞事例集 Vol.3 に掲載される。

(委員長)

少しでも良いので、このコンセプトは「このまちで頑張っている人を、まちぐるみで応援しようよ」というものなので、チケット持ってきた人は「あ、この人賞を受けた人なんだ」と、「どんな活動されてるんですか」などのコミュニケーションが、コーヒーを飲みに行ったら発生する…というようなイメージを、頑張っている人達をまちで応援できればなという感じですので、ぜひご協力をお願ひしたいと思いうん。

全体としては、予定していた内容は終わりです。何かありますか？

では、本日の会議はこれで閉じさせていただきます。皆さん、活発な御議論ありがとうございました。

(事務局)

皆さん、長時間に渡りお疲れ様でした。ありがとうございました。また、自治会に行っていたときには、いろいろな議論ができるように、自治会の方とももう少し情報共有をはかりたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

閉会